

北っ子 敷島北小学校だより

令和7年10月31日 文責 学校長 増坪広夫

運動会へのご参加ありがとうございました

運動会の練習中は熱中症予防に翻弄されましたが、当日は曇り空の涼しいコンディションのもと、通常日程で運動会を開催することができました。「ふんばれ北っ子、北小だましいみせつけろ」のテーマのもと、6年生を中心に競技や係活動など、全校が一丸となって取り組めた運動会でした。最終得点は「赤27点」「白33点」で、久しぶりの白組優勝となりました。団結して全力を出し切った子どもたちは、文句なしのすばらしい活躍でした。最後の運動会となった6年生や初めて参加した1年生をはじめ、すべての子供たちが運動会を通して一回り大きく成長してくれたことと思います。

保護者の皆様におかれましては、温かい励ましの声援はもちろん、全校踊りへの参加や閉会式後の会場片付けなどにもご協力いただき、あらためて感謝申し上げます。



さて、運動会特別日課中は、学年など集団で活動する時間が一番多かったわけですが、それは表現運動に最も多くの時間を費やしてきたからに他なりません。その分多くの時間を共に過ごした職員も、この運動会を通じて様々な子供たちの良さを再発見することができたように思います。表現運動は、間違いなく本番の出来が最高でした。お家の方に見てもらっているということで子供たちも大きな力を得ていたのではないのでしょうか。

学校には1年間を通して多くの行事があります。6年生の卒業式を除けば、運動会ほど多くの時間を費やすものではありません。子供たちにとっても、ここで得た経験はこれからの学校生活を過ごす上で、きっと大きな自信となったことでしょう。

また、この運動会を通して担任以外のたくさんの教師とふれあうことができたことも貴重な経験であったはずで。学級の中とはまた違ったがんばりが、運動会当日も発揮されていたように思えます。運動会は終わりましたが、運動会を通して身につけた力が今後発揮されるものだと信じています。運動会の成否はそこにあるような気がしてなりません。



未知を既知に変える



運動会では係活動も重要な役割の一つです。「何を何時どのようにするのか」「仕事が早く終わったら次は何をするか」など、担任や担当が時間をかけて丁寧に子供たちと確認し、事前に何度も練習してきました。そうした積み重ねが今回の運動会では多くの場面で役立っていたように思えます。なにか不測の事態が起こっても、これまでやってきたことを既知として知恵を絞り、「未知を既知に変える」ことで、トラブルにも対応して自分の役割をしっかりと果たすことができていたようです。

過去の自分を越える

10月28日(火)に小瀬陸上競技場で甲斐市陸上記録会が行われました。当日は素晴らしい青空の下、6年生が「走・跳・投」で自己ベストを目指して全力で競技することができました。「スタートが緊張した」という子も多くいましたが、こうした緊張感のある中で活動する機会はそうあるものでなく、子供たちにとっては貴重な時間だったようです。「スポーツはメンタルも大事」とよく言われますが、陸上競技もその通りで「心身ともに鍛える」というのはこうした経験を数多く踏んでいくことかもしれません。



がんばった成果が十分に発揮され、多くの子が自己ベストを更新したり、自己ベストに近い記録を出したりすることができたようでした。ただ中には自分の力が十分に出せず悔しい思いをした人もいたようですが、きっと「負けたことがあるというのが、いつか大きな財産になる」と思います。思いは様々でしょうが、学校代表して立派に大会に参加できたこと、真摯な態度で競技に出場できたことをうれしく思います。

陸上競技は、リレーを除けばあくまでも個人の力によるものです。「一緒に喜んでくれる友達」「失敗を慰めてくれる友達」「大きな声援を送ってくれる友達」「当日まで一緒にがんばった友達」がいてくれたこと。これらは目には見えないものですが、この陸上というスポーツが何か「集団競技」の様な気さえしてくるから不思議なものです。

競技会などでは、とにかく記録だけに目を奪われがちですが、集合して話を聴く姿勢や友だちを応援する姿、自分の競技へ取り組む姿勢などいろいろなことを学ぶ機会でもありました。そのすべてにおいて「何事にも一生懸命」取り組む子どもたちの姿というのは本当に美しいものです。



当日私も応援に行かせていただきましたが、参加した6年生の子供たちの姿から感動を分けてもらうことができました。会場まで足を運んでくださった保護者の皆様の応援も子どもたちの背中を押してくれたことでしょう。心のこもった応援ありがとうございました。

心配事はどうぞお聞かせください

文部科学省は今月「問題行動・不登校の調査結果」について「全国の不登校児童生徒は12年間連続で増え、全体の3.9%にあたり過去最多を更新した」という実態について公表しました。本校で換算すると単純計算で8人相当となります。

以前、教員向けの研修会で相談支援センターのチーフスクールカウンセラーの方からお話を聞く機会がありました。児童相談所に長く勤められた経験豊富な先生のお話は「どの子も安心して学び育つための支援はどうあるべきか」というテーマでしたが、どの話も心に響くものばかりでした。

特に印象に残ったのは、「不登校とは多様な要因・背景により結果として不登校状態になっているということであり、その行為を『問題行動』と判断してはいけない」「不登校支援のゴールは狭い意味での学校復帰ではなく、最終的には『社会的自立』にある」という内容でした。

学業不振や登校しぶりだけではなく、お子さんの心配ごとはどうぞお聞かせください。県でも相談窓口を設けていますが、学校でも一緒によりよい成長につながるような話が出来れば幸いです。

やまなし子供SOSダイヤル
(24時間子供SOSダイヤル)

な や み いう
0120-0-78310
(24時間365日・通話料無料)

子供の発達相談ダイヤル

055-267-8235
(平日9:00~17:00)

※やまなし子供SOSダイヤルでも相談できます